

別紙 繁殖分布図の例

<繁殖分布図の構成>

①水平分布図

現地調査、アンケート調査のデータ及び他の調査で得られた情報を、20 kmメッシュごとに集計し、繁殖分布図に図示した。凡例は以下のとおり。

【繁殖ランク】

- : A 繁殖を確認した
- : B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- : C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- : D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそろくない

※ランクDは2010年代調査の分布図にのみ掲載。

②垂直分布図

標高が明らかな調査地の現地調査データを使用。凡例は以下のとおり。

- : 調査地の分布
- : その種が観察された調査地点

③各年代の分布状況の変化、調査地数

水平分布図における各繁殖ランクの記録メッシュ数の変化を、表「各年代の分布状況の変化」に、1990年代調査と2010年代調査の現地調査の記録地点数（1990年代と2010年代でほぼ同じコースで現地調査を実施できた、1,947 地点の現地調査結果に基づく情報）を、表「調査地数」として示した。

<増加した種>

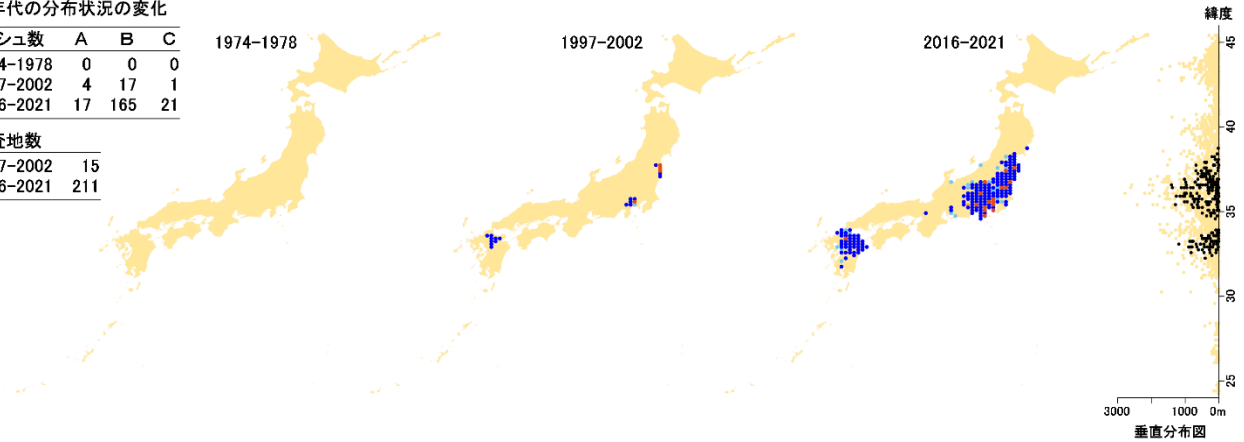
ガビチョウ 分類：スズメ目チメドリ科 Chinese Hwamei *Garrulax canorus*

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	0	0	0
1997-2002	4	17	1
2016-2021	17	165	21

調査地数

1997-2002	15
2016-2021	211



愛玩用・観賞用に輸入された飼い鳥が逸出したと考えられる。日本では江戸時代から輸入の記録がある。野外では1980年代に北九州市で観察されて以降、各地で分布を広げている。メッシュ数は1990年代調査では22メッシュであったが、2010年代調査には203メッシュにまで急増した。地上採食性で留鳥性が強いいため、積雪の少ない場所に分布していたが、最近では季節移動する個体が積雪の深い地域でも繁殖期に観察されるようになっている。

キビタキ 分類：スズメ目ヒタキ科 Narcissus Flycatcher *Ficedula narcissina*

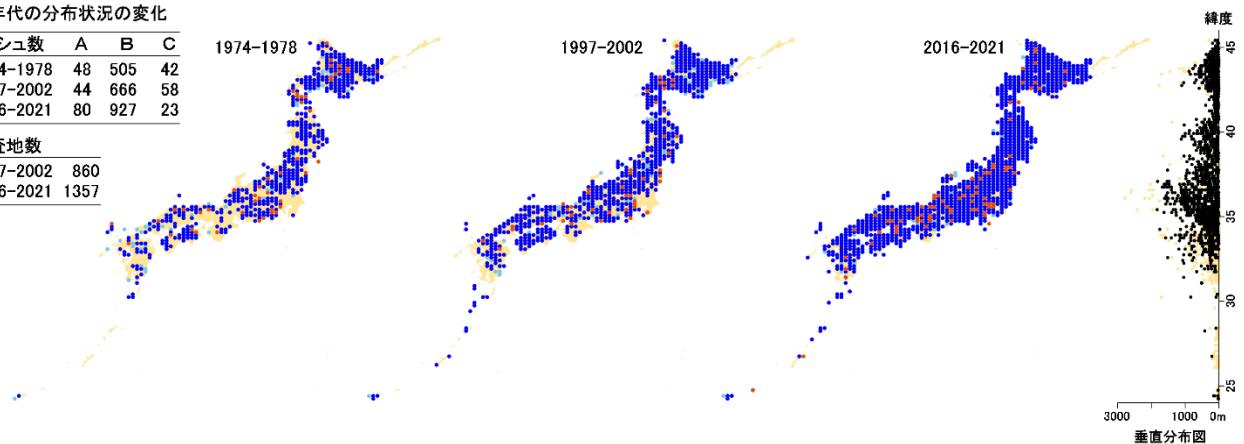
※亜種リュウキュウキビタキを含む。

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	48	505	42
1997-2002	44	666	58
2016-2021	80	927	23

調査地数

1997-2002	860
2016-2021	1357



南西諸島に亜種リュウキュウキビタキが留鳥として、その他の伊豆・小笠原諸島を除く全国に亜種キビタキが夏鳥として分布する。ただし、屋久島やトカラ列島の繁殖集団は夏鳥だと考えられている。過去3回の調査期間を通じてメッシュ数が大幅に増加し、1990年代調査と2010年代調査でほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録を比べると、860地点から1,357地点へと大きく増加していた。

<減少した種>

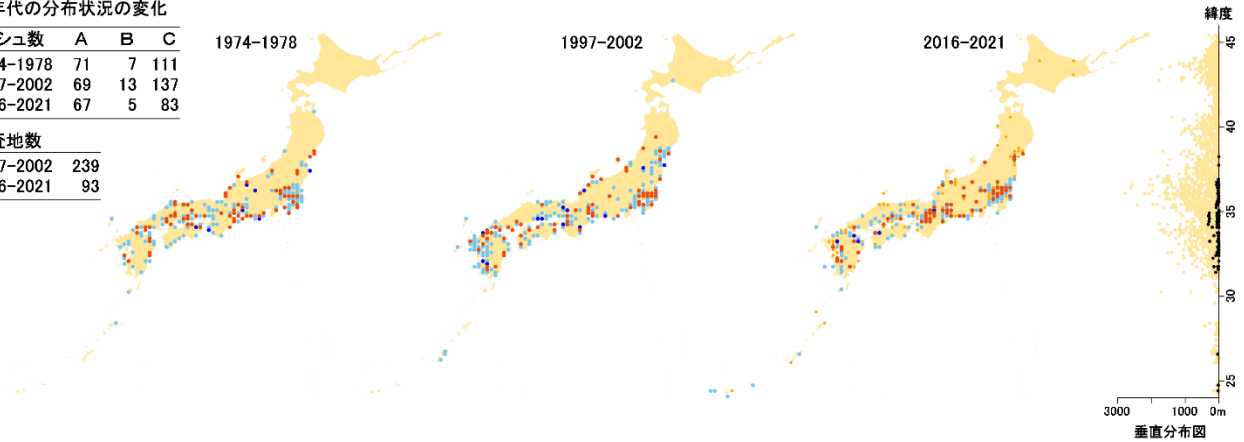
コサギ 分類：ペリカン目サギ科 Little Egret *Egretta garzetta*

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	71	7	111
1997-2002	69	13	137
2016-2021	67	5	83

調査地数

1997-2002	239
2016-2021	93



主に本州以南で留鳥として繁殖する。近年各地でコサギの減少が報告されており、本調査でもメッシュ数が減少しており、1990年代調査と2010年代調査にほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録を見ても、239地点から93地点へと激減していた。埼玉県の場合では、その要因として外来魚の増加に伴う小魚の減少や、水田の圃場整備にともなう水田の水生生物の減少、オオタカなどの猛禽類の増加に伴う被捕食率の増加などが挙げられている*。

*内田博 (2017) 埼玉県東松山市周辺でのコサギ *Egretta garzetta* の減少. 日本鳥学会誌 66: 111-122.

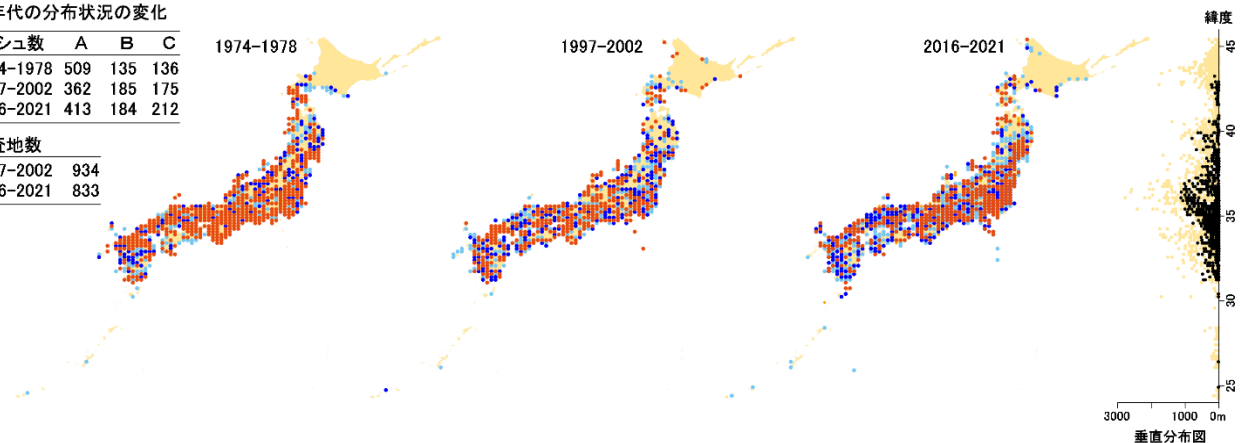
ツバメ 分類：スズメ目ツバメ科 Barn Swallow *Hirundo rustica*

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	509	135	136
1997-2002	362	185	175
2016-2021	413	184	212

調査地数

1997-2002	934
2016-2021	833



北海道から奄美大島にかけて夏鳥として分布する。宮崎県や鹿児島県などでは越冬する。北海道では個体数が少なく、特に道東地域にはあまり分布しない。平地や山間部の農耕地や市街地、河川敷などに生息する。本州以南では人家に営巣するが、北海道では牛舎や厩舎に営巣することが多い。分布自体は大きな変化はないが、1990年代と2010年代のほぼ同じルートで調査できた場所の総個体数を比べると、14,978羽から8,987羽へと減少していた。